

Ⅲ. 各部門別の生産概要

1. 湯浅農場

1) 柑橘部門

担当 友廣教道（副担当 堀川勇次）

(1) 概況

湯浅農場では約 200 品種（内、柑橘遺伝資源保存園で一般公開しているものが約 140 品種）の柑橘を栽培している。中でも、ウンシュウミカン（早生品種として‘宮川早生’を、中生品種として‘林温州’を栽培）を約 3 ha 栽培している。

(2) 栽培概要

病害虫防除および除草剤散布実績は第 2 表および第 3 表に示した。施肥実績としては“有機ペレット（N-P-K 6-8-4）”を春肥として 10 a 当たり 160 kg，秋肥として 10 a 当たり 180 kg を施用した。

第 2 表 病害虫防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病害虫
3 月 1 日	トモノール S	60 倍	カイガラムシ類，ハダニ類
4 月 2 日	IC ボルドー66D	40 倍	かいよう病
5 月 11 日	ロディー乳剤	2,000 倍	アブラムシ類，シャクトリムシ類
	アドマイヤーフロアブル	3,000 倍	アブラムシ類，アザミウマ類
	ナリア WDG	2,000 倍	灰色かび病，そうか病，黒点病
5 月 30 日	エムダイファー水和剤	600 倍	黒点病
	コルト顆粒水和剤	2,000 倍	カイガラムシ類
6 月 25 日	ジマンダイセン水和剤	400 倍	黒点病
	エルサン乳剤	1,000 倍	カイガラムシ類，ゴマダラカミキリ（成虫）
	トモノール S	200 倍	ヤノネカイガラムシ（幼虫）
7 月 25 日	エムダイファー水和剤	600 倍	黒点病
	ダントツ水溶剤	2,000 倍	アブラムシ類，ゴマダラカミキリ
8 月 12 日	ジマンダイセン水和剤	500 倍	黒点病
	エルサン乳剤	1,000 倍	カイガラムシ類，ゴマダラカミキリ（成虫）
	ハチハチフロアブル	2,000 倍	アザミウマ類，アブラムシ類
8 月 25 日	ジマンダイセン水和剤	500 倍	黒点病
	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍	ミカンハダニ
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000 倍	カメムシ類，チャノキイロアザミウマ
9 月 15 日	ジマンダイセン水和剤	500 倍	黒点病
	アドマイヤーフロアブル	3,000 倍	アブラムシ類，アザミウマ類
11 月 7 日	ベフラン液剤 25	2,000 倍	貯蔵病害
	ベンレート水和剤	4,000 倍	貯蔵病害

第3表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
4月5日	タッチダウン IQ	100 倍	多年生雑草
5月24日	ゾーバー	1,000 倍	一年生雑草
6月22日	タッチダウン IQ	100 倍	多年生雑草
8月3日	タッチダウン IQ	100 倍	多年生雑草
10月9日	ラウンドアップマックスロード	100 倍	多年生雑草

(3) 果実品質・収量および出荷実績

①果実品質；平均糖度は10.8度であった。

②収量実績；収穫量は約76 tと昨年（約80 t）より少なかった。着花量は昨年とほぼ同様であったが、果実肥大期における降雨量が少なかったため減収した。

③出荷実績；主に学内販売用として出荷した。その他，株式会社 近鉄百貨店（本社；大阪府大阪市）での歳暮用商品として出荷した。生果で出荷できなかった果実は“無添加みかんジュース「100%近大です。」”の原料に用いた。

(4) その他の柑橘について

ウンシュウミカン以外の品種についても，（2）とほぼ同様の方法で栽培した。柑橘遺伝資源保存園で栽培している柑橘は農学や薬学等の学術分野における研究材料として供試している。また，農場における見学・研修用の材料として用いているが，一部，食材としても学外に提供している。本年も日本で希少価値が高いブラッドオレンジ（品種；モロ）や市場にあまり出回っていない黄金柑を有限会社 ラ・ポーズ（本社；奈良県奈良市）が運営する「フランス菓子 ラ・ポーズ」他1店舗に提供した。これらの果実を材料として，写真9のようなスイーツが製造・販売され，大変好評を得ている。



写真9 近大柑橘を使ったスイーツ

(5) 総括

今後，ウンシュウミカン栽培は収量を追及するだけでなく，“近大みかん”というブランドに恥じない高品質・高付加価値の果実を作る研究も実施している。

その他の柑橘については遺伝資源として研究用に保有するのみならず，別項（p 24～27）のように見学・研修時にも有効活用している。

2) マンゴー部門

担当 堀川勇次（副担当 日下秀人）

(1) 概況

プラスチックフィルムハウス 2 棟 (20 a) に‘アーウィン’を、プラスチックフィルムハウス 1 棟 (10 a) に‘愛紅’を栽培している。‘アーウィン’の開花始めは 3 月中旬、満開期は 4 月中旬であり、収穫時期は 7 月下旬から 8 月下旬であった。‘愛紅’の開花始めは 3 月下旬、満開期は 4 月中・下旬であり、収穫時期は 8 月上旬から 9 月中旬であった。

(2) 栽培の概要

病虫害防除実績は第 4 表に、除草剤散布実績は第 5 表に示した。肥料は 3 月 13 日に有機肥料の“フィッシュプロテイン (N-P-K 6-6-4)”を 40 kg/10 a、8 月 24 日、31 日に“おこめちゃん (N-P-K 8-12-10)”を 40 kg/10 a を施用した。

(3) 収量および出荷実績

‘アーウィン’および‘愛紅’の収量はそれぞれ約 1,970 kg、980 kg であった。

‘アーウィン’は主に学内販売として出荷した。その他、関西の市場に出荷し、仲卸を通じて「阪神百貨店阪神梅田本店」（大阪府大阪市）でも販売された。また、有限会社 ラ・ポーズ（本社；奈良県奈良市）が運営する「フランス菓子 ラ・ポーズ」他 1 店舗や和歌山県内の株式会社 出口商店（本社；和歌山市）が運営するスイーツ店「Patisserie anne」2 店舗に提供し、パンケーキやタルト等のスイーツ（写真 10）として販売された。

‘愛紅’は関東の仲卸に出荷し、「千疋屋総本店日本橋本店」（東京都中央区）および「伊勢丹」新宿店をはじめとする 4 店舗で販売された。

(4) 今後の展望

現在、‘アーウィン’の樹齢が 30 年以上になることから、収量の安定化を図るため、改植が必要とされる。数年前から改植を始め、数年後には終える予定である。当初 3 条植えにしていたが、日当たりをよくするため 2 条植えに変更した。また、樹高が高くないよう樹の周りに鉄管を設置し、主枝を誘引して水平に仕立てる予定である（写真 11）。この方法によって着果している果実に多くの日光を当て、果実品質を向上させることができると考えている。



写真 10 近大マンゴーのタルト



写真 11 樹の仕立て方

第4表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
2月8日	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	アザミウマ類
	オーソサイド水和剤 80	600倍	炭そ病
3月18日	ディアナ DWG	5,000倍	チャノキイロアザミウマ
	フルピカフロアブル	2,000倍	灰色カビ病
3月28日	トリフミン水和剤	2,000倍	うどんこ病
4月18日	フルピカフロアブル	2,000倍	灰色カビ病
4月27日	キラップフロアブル	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	スミレックス水和剤	1,000倍	軸腐病
5月11日	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000倍	アザミウマ類
	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	炭そ病
5月24日～	コルト顆粒水和剤	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
25日	サンマイト水和剤	1,000倍	ハダニ類
	アミスター10フロアブル	1,000倍	炭そ病
6月18日	ダントツ水溶剤	2,000倍	アザミウマ類
	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	炭そ病
7月12日	ディアナ DWG	5,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ストロビードライフフロアブル	2,000倍	炭そ病
9月19日,	サンマイト水和剤	1,000倍	ハダニ類
10月4日	ベストガード水溶剤	1,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ジマンダイセン水和剤	800倍	炭そ病
10月10日	キラップフロアブル	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	バロックフロアブル	2,000倍	ハダニ類
	ベルコート水和剤	1,000倍	炭そ病
10月27日	ICボルドー66D	50倍	かいよう病
11月5日～	コルト顆粒水和剤	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
6日	コテツフロアブル	2,000倍	チャノキイロアザミウマ
	ジマンダイセン水和剤	800倍	炭そ病

第5表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
1月10日	ラウンドアップマックスロード	100倍	多年生雑草
5月8日	ラウンドアップマックスロード	100倍	多年生雑草
7月5日	ブリグロックス L	100倍	多年生雑草
10月4日	ラウンドアップマックスロード	100倍	多年生雑草

3) 水稻部門

担当 津本光貴（副担当 宮原睦）

(1) 概況

うるち米の‘キヌヒカリ’および‘きぬむすめ’を栽培した。平年に比べ、夏期の気温が高く、かつ、台風が多かったため、出穂期からの水管理が困難であった。しかし、稲の刈取り時期は昨年と比べて1週間程度早く行うことができた。

本年は和歌山県において特別栽培（農林水産省が定め、各都道府県が認証する方法で化学合成農薬および化学肥料の窒素成分を各都道府県の慣行栽培で使用する半分量以下で行う栽培方法）でのみ認可されている‘つや姫’も栽培した。‘キヌヒカリ’については昨年と同様、特別栽培による栽培も行った。

(2) 栽培概要

慣行栽培として‘キヌヒカリ’および‘きぬむすめ’を約135aのほ場で栽培した。病虫害防除および除草剤散布実績を第6表および第7表に示した。肥料は稲苗定植と同時に“スーパーSR コート稲用一発型20K化成(N-P-K 14-14-14)”を60kg/10aの割合で施用した。

第6表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率 (使用量)	対象病虫害名
4月19日	温湯消毒		ばか苗病
5月30日～6月6日	エバーゴールド箱粒剤	50 g/箱	いもち病、紋枯病、 ウンカ類
6月8日、20日	ショウリョクS粒剤（一部、ほ場を除く）	3 kg/10 a	スクミリンゴガイ
7月29日、8月1日	ブラシンフロアブル	1,000 倍	いもち病、ごま葉枯病
	バリダシン液剤5	1,000 倍	紋枯病
	パダンSG水溶液	1,500 倍	ニカメイチュウ
9月17日	アルバリン顆粒水溶剤（一部、ほ場を除く）	3,000 倍	ウンカ類

第7表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	散布量	対象雑草
6月8日	半蔵1キロ粒剤（一部、ほ場）	1 kg/10 a	水田一年生雑草
6月8、20日	ショウリョクS粒剤（一部、ほ場を除く）	3 kg/10 a	水田一年生雑草

(3) 収量実績

慣行栽培で栽培したコメの収量は両品種あわせて約5tと昨年と比べて17%減少した。その要因として、特別栽培米で一部ほ場を使用したことと、登熟期の異常高温と害虫によって籾の充実が不良となり未熟米が増えたためと考えられた。

(4) 特別栽培米

本年も特別栽培米の生産を湯浅農場で昨年に引き続き試みた。栽培品種には当農場で栽培法が確立している‘キヌヒカリ’と和歌山県において慣行栽培では栽培できない‘つや姫’を選定し、両品種併せて33aのほ場で栽培した。

化学合成農薬や化学肥料の施用量以外は慣行栽培法と同様に行った。病虫害防除実績は第8表に、除

草剤散布実績は第9表に示した。肥料は苗の定植と同時に、“スーパーアミノ DX 特一発(N-P-K 12-10-8)”を 60 kg/10 a の割合で施用した。

第8表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率 (使用量)	対象病虫害名
4月19日	温湯消毒		ばか苗病
5月25, 27日	嵐ダントツ箱粒剤	50 g/箱	いもち病, 紋枯病, ウンカ類
7月29日,	ブラシンフロアブル	1,000 倍	いもち病, ごま葉枯病
8月1日	バリダシン液剤5	1,000 倍	紋枯病
	パダン SG 水溶液	1,500 倍	ニカメイチュウ

第9表 除草剤散布実績

散布時期	農薬名	散布量	対象雑草
5月29日, 6月2日	半蔵1キロ粒剤	1 kg/10 a	水田一年生雑草

特別栽培の‘キヌヒカリ’は慣行栽培の‘キヌヒカリ’と同等の品質であったが、収量は微減した。昨年は減収したので、今回、堆肥の施用で地力を高めることにより、化学肥料で賄えきれなかった養分の補てんが結果に表れたと考えられた。‘つや姫’については湯浅農場で本年初めて栽培した品種であったが、食味も良く、収量も特別栽培の‘キヌヒカリ’より多かった。

(5) 総括

近年の異常気象により、水稻栽培も年々、困難になってきている。特に夏期の高温による障害が生育不良や品質の低下につながっている。本年も深水管理による高温障害対策を行ったが、流水の水温も高く、なかなか水田の水温も下がらなかった。今後の対策として、登熟期に深水管理を行うとともに、高温障害が起こりにくい栽培法を模索中である。さらに、本年は和歌山県で20数年ぶりにウンカによる害虫障害も発生し、品質低下につながった。

特別栽培米‘キヌヒカリ’については昨年と同等の成果が得られた。一方、‘つや姫’は食味等の評価が高かった。今後、‘つや姫’

(写真12)の作付面積を増やし、環境保全型農業を積極的に行っていかうと考えている。



写真12 特別栽培米‘つや姫’

4) ウメ部門

(1) 概況

湯浅農場では大梅‘南高’および小梅‘白王’を約 20 a 栽培している。大梅は青梅および漬け梅と用途に分け収穫し、小梅は漬け梅用として完熟果実を収穫している。また、本年は農場実習で農学部の学生と共に青梅の収穫（写真 13）や選別も行った。

(2) 栽培概要

病害虫防除実績は第 10 表に、除草剤の散布実績は第 11 表に記載した。昨年は 8～9 月の台風の影響による落葉で収穫後の薬剤散布は行わなかったが、本年は例年通りの薬剤散布を行った。肥料は“有機ペレット（N-P-K 6-8-4）” 30 kg/10 a を春肥として 3 月 27 日に、お礼肥として 6 月 24 日に、秋肥として 10 月 23 日に施用した。また、3 月 29 日、4 月 6 日および 16 日の薬剤散布時に、液肥“ヨーヒ B5（N-P-K 2-5-4）”（800 倍に希釈したもの）を混合して散布した。

(3) 収量および販売実績

‘南高’の青梅および完熟果実の収量は、それぞれ約 430 kg、約 450kg、‘白王’の収量は約 60 kg であった。本年は昨年の収穫量が一昨年に比べ増加したので、若干減少すると予想していた。しかし、開花期の天候にも恵まれ、大梅は昨年以上の豊作となった。

青梅は主に学内販売で出荷し、一部は梅シロップ作り用に冷凍保存を行い、見学者の梅シロップ作り体験に用いている。完熟果実の‘南高’、‘白王’は農学部の学生が農場実習で梅干に加工し（写真 14）、学内販売、生物理工学部祭および農学部学園祭等で販売した。本年から梅干のパッケージデザインを新しいものに変更した（写真 15）。

(4) 今後の展望

年々、ウメの老木化が進んでおり、収穫量の減少が見込まれる。そのため 11 月に一部の老木を取り除き、苗木の定植を行った。今後も様子を見ながら減収にならないよう、徐々に改植を行う予定である。また、剪定時には定植した苗木に十分に日が当たるよう、成木の枝を取り除いていく予定である。

本年の収量は昨年、一昨年に比べ増加したが、小粒果実の割合が多かった。来年以降は大粒の果実の割合を増やすことを課題として着果数を多くさせないような剪定や十分な水管理を行い、良品質の果実を収穫できるようにしていきたいと考えている。

担当 日下秀人（副担当 友廣教道）



写真 13 学生実習での青梅収穫



写真 14 学生実習での梅干作り



写真 15 梅干パッケージ新規ラベル
（左：小梅・右：大梅）

第 10 表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
3 月 23 日	IC ボルドー60D	50 倍	かいよう病
3 月 28 日	スカシバコン L	50 本/10 a	コスカシバ
3 月 29 日	マイコシールド水和剤	1,500 倍	かいよう病
	ベルクート水和剤	2,000 倍	黒星病, すず斑病
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍	アブラムシ類, ケシキスイ類
4 月 6 日	マイコシールド水和剤	1,500 倍	かいよう病
	オーソサイド水和剤 80	800 倍	黒星病, すず斑病
	バリアード顆粒水和剤	4,000 倍	シンクイムシ類, アカマダラケシキスイ
4 月 16 日	スターナ水和剤	1,000 倍	かいよう病
	コルト顆粒水和剤	3,000 倍	アブラムシ類
	アブロードフロアブル	1,000 倍	カイガラムシ類幼虫
4 月 26 日	マイコシールド水和剤	1,500 倍	かいよう病
	オーソサイド水和剤 80	800 倍	黒星病, すず斑病
	バリアード顆粒水和剤	4,000 倍	シンクイムシ類, アカマダラケシキスイ
5 月 9 日	スターナ水和剤	1,000 倍	かいよう病
	スコア顆粒水和剤	3,000 倍	黒星病, すず斑病
	ダントツ水溶剤	2,000 倍	ケムシ類, カメムシ類
9 月 19 日	スミチオン乳剤	1,000 倍	アメリカシロヒトリ
	アブロード水和剤	1,000 倍	カイガラムシ類幼虫

第 11 表 除草剤散布実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
5 月 8 日	ラウンドアップマックスロード	100 倍	多年生雑草
7 月 25 日	ラウンドアップマックスロード	100 倍	多年生雑草

2. 生石農場

1) 合鴨部門

担当 岩森明彦（副担当 浦西章生）

(1) 概況

生石農場では、合鴨（チェリバレー種）を 1983 年から肥育しており，‘近大おいし鴨’として販売し好評を得ている．2018 年から肥育期間を 6 月から 11 月までと限定した．

(2) 導入および出荷の概要

合鴨の雛導入および出荷状況を第 12 表に示した．雛の導入は年 4 回行った．出荷羽数は 502 羽であり，昨年より 12 羽増やした．なお，雛は高橋人工孵化場から導入した．

(3) 収量および販売実績

‘近大おいし鴨’の収量は約 650 kg であった．‘近大おいし鴨’はロース肉とモモ肉，昨年から販売を開始したささみ肉の 3 種類（写真 16）販売した．

販売実績としてロース肉およびモモ肉のスライス肉を JA 紀の里ファーマーズマーケットめっけもん広場（和歌山県紀の川市），ファーマーズマーケットどんどん広場，有田川町農林産物加工直売所あらぎの里（和歌山県有田川町）で販売し，株式会社モンマルシェ（兵庫県尼崎市），近畿大学水産研究所銀座店（東京都中央区）および雀けん庵（和歌山県和歌山市）にはブロック肉として提供した．また，ささみ肉は JA 紀の里ファーマーズマーケットめっけもん広場で販売した．

(4) 総括

現在，神経質な合鴨のストレスを軽減する肥育環境や与える餌を変えることにより高品質な肉質作りを目指しており，本事業を通じて地域貢献に繋げていこうと湯浅農場の教員と連携し研究を進めている（写真 17）．また，合鴨の糞で堆肥を作り，農産物の肥料として利用することで循環型の農業を進めていこうと考えている．



写真 16 近大おいし鴨（左から，ロース肉，ささみ肉，モモ肉）



写真 17 試験区画で給餌している様子

第 12 表 近大おいし鴨の雛導入および出荷状況

雛導入日	肥育日数	出荷日	出荷羽数
6 月 20 日	68 日	8 月 26 日	129 羽
7 月 18 日	69 日	9 月 24 日	134 羽
8 月 22 日	68 日	10 月 28 日	123 羽
9 月 19 日	70 日	11 月 27 日	116 羽

2) サツマイモ部門

担当 浦西章生（副担当 岩森明彦）

(1) 概況

‘シルクスweet’ 0.13 a, 安納芋の‘安納紅’ 0.13 aを栽培した。

(2) 栽培の概要

除草剤散布実績は、第 13 表に示した。元肥〔ほ場全体に牛糞堆肥 56 kg, バーク堆肥 56 kg, “有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)” 3kg〕を施用後、耕起し、雑草防止と地温を保温するためにグリーンマルチを敷設した。ツルさしは両品種とも 5 月 16 日に行った。株間の除草はツルが畝間まで伸びていない栽培前半期に除草剤を散布し、栽培後半期は刈払機で行った。

第 13 表 除草剤散布実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象雑草
6 月 12 日	ラウンドアップマックスロード	200 倍	一年生雑草

(3) 収量および出荷実績

‘シルクスweet’ (写真 18)’, ‘安納紅 (写真 19)’ をそれぞれ 51 kg, 39 kg 収穫した。2 品種を産直市場と農学部学園祭で販売した (写真 20)。



写真 18 収穫時の‘シルクスweet’



写真 19 収穫時の‘安納紅’

(4) 今後の展望

収穫時期を確認する目的で収穫予定日 2 週間前から芋の生育調査を行い、さらに追熟期間中に糖度調査も行った。また、保管温度についても 10℃を下回らなうように保管適切温度 13～14℃を維持でき、かつ、費用をかけない方法を模索中である。



写真 20 販売中の‘安納紅’

3) ジャガイモ部門

担当 浦西章生 (副担当 岩森明彦)

(1) 概況

ほ場 1.04 a に ‘ニシユタカ’ , ‘シャドークイーン’ , ‘ノーザンルビー’ の 3 品種を栽培した.

(2) 栽培の概要

病害防除実績は第 14 表に示した. 元肥としてはほ場全体に牛糞堆肥 150 kg およびバーク堆肥 150 kg を施用した. 3 品種とも殺菌消毒後, 低温保存した芋を種芋として 3 月 20 日の定植し, 同時に “有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)” を 7.5 kg 施用した. 発芽促進と地温上昇を目的として, 定植後の畝上に透明マルチを敷設した. 4 月 29 日, 5 月 17 日に土寄せを行い, 追肥として “有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)” 8 kg を施用した. 収穫は 6 月 20 日から行った.

第 14 表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
4 月 26 日	オルトラン水和剤	1,000 倍	ヨトウムシ, アブラムシ類

(3) 収量および出荷実績

‘ニシユタカ’ 85 kg, ‘シャドークイーン’ 30.5 kg, および ‘ノーザンルビー’ 28.3 kg を収穫し, 産直市場で販売した (写真 21) .

(4) 今後の展望

本年度は, 鴨糞から生産した堆肥を使用した農法を確立するため, 自家生産した堆肥を使用した栽培も行なった. その結果, 牛糞堆肥を使用した栽培法に比べ, 収穫量は若干, 減収したが, 程よいサイズの芋が収穫できた. 今後も環境へ負荷をかけない, 環境保全型の循環農業に取り組んでいこうと考えている.



写真21 販売中のジャガイモ

4) ニンニク部門

担当 浦西章生（副担当 岩森明彦）

(1) 概況

ほ場 1.5 a に‘ホワイト六片’を栽培した。

(2) 栽培の概要

病虫害防除実績は第 15 表に示した。2018 年 10 月中旬に元肥〔ほ場全体に牛糞堆肥 900 kg, ようりん 20 kg, 有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8) 80 kg〕を施用後, 3 穴開き黒マルチを敷設した。10 月 22 日に種球を定植した (写真 22)。種球は購入種球を使用した。追肥として 2018 年 11 月 28 日, 2019 年 3 月 11 日, 4 月 2 日, 4 月 29 日, 5 月 17 日および 5 月 22 日に“有機化成 8 号 (N-P-K 8-8-8)”を 56.8 kg 施用した。抽苔 (ちゅうだい) 時期に蕾欠きを行い, 6 月 13 日に収穫後, 乾燥した。

(3) 収量および出荷実績

‘ホワイト六片’ 1,218 個を収穫し, 農学部祭や産直市場 (写真 23) で販売した。

(4) 今後の展望

本年度は L および M サイズの種球を購入し, 定植した。その結果, 昨年より大きい球体を収穫できた。生石農場は高地に位置し, 収穫後は梅雨時期になる。そのため, 送風機を使用した乾燥が主になるが, 費用がかかるため, 乾燥に必要な費用を削減でき, 高湿地でも可能な乾燥方法を調査し取り組んでいこうと考えている。



写真 22 栽培中のニンニク



写真 23 販売中のニンニク

第 15 表 病虫害防除実績

防除時期	農薬名	希釈倍率	対象病虫害
2 月 21 日	ベルクト水和剤	1,000 倍	葉枯病
2 月 26 日	Z ボルドー銅水和剤	500 倍	春腐病
3 月 8 日	ダコニール 1000	1,000 倍	葉枯病
	カッパーシン水和剤	1,000 倍	春腐病
4 月 3 日	Z ボルドー銅水和剤	500 倍	春腐病
4 月 4 日	ダコニール 1000	1,000 倍	葉枯病
4 月 18 日	カッパーシン水和剤	1,000 倍	春腐病
5 月 9 日	カッパーシン水和剤	1,000 倍	春腐病

5) ブルーベリー部門

担当 浦西章生（副担当 岩森明彦）

(1) 概況

1.0 a のほ場に 3 品種（早生品種の‘チャンドラー’ 4 本，中生品種の‘ティフブルー’ 3 本および‘オレゴンブルー’ 3 本）を試験栽培している．全品種ともに 5 月中旬頃から蕾をつけ開花した（写真 24）が，着花数は少なかった．6 月上旬には着果した（写真 25）が，大半自然落下してしまい，収穫する事ができなかった．



写真 24 蕾（チャンドラー）



写真 25 果実の着果（チャンドラー）

(2)

栽

培の概要

2 月 15 日，株元から 30 cm 離れた位置 3 箇所にて地下 30 cm の穴を掘り，牛糞堆肥 500 g を施用した．さらに，掘り返した土に“ようりん” 300 g を混合し，それを埋め戻した（写真 26 および 27）．3 月上旬に樹木の内部を空かすように剪定作業を行った．追肥として，4 月 5 日，5 月 9 日および 11 月 9 日に硫安 50 g/株を施用した．



写真 26 施肥前の穴（地中 30 cm の深さ）



写真 27 肥料の施用（牛糞堆肥）

(3) 収量

3 品種ともに花の数量・果実の着果数ともに少なかった．さらに，果実は自然落下したため収穫できなかった．

(4) 今後の展望

樹木の生育を促進させるために株元 3 箇所の地中に牛糞堆肥とようりんを施用することで，秋季時期に昨年よりも生育が改善していた．今後も，穴肥施用を継続と剪定を行い，生育を促進していく予定である．